

## 実践報告

# 試験問題の答案を活用した協働的なライティング学習 「友だちの表現に学ぼう！ ～ライティング 上手も下手も 鏡かな～」

A Report on Colaborative Writing Study

Using the Students' Answer Sheets of Term-examination

～ Let's Learn from Your Schoolmates' English Expression ! ～

英語科 西平美保

## 要 旨

本稿は、同年代の生徒の試験問題の不完全な答案を題材として、生徒が想像力を働かせて読み、日本語での思考・判断を重ね、よりよい英語表現を生み出すという一連のプロセスをグループで行い、最後にそれを発表するという協働的な学習の実践報告である。

読む・書くにフォーカスされているが、正しい文章が与えられる通常のリーディングとも、自分の自由意志で書くライティングとも異なり、相手の意図を読みとり、相手の書いたものに推敲やリメイクをほどこすことで、自分の英語表現力を振り返り、更なる豊かな表現を学ぶことを目的としている。

本実践では、1時間の協働的な学習を効果的に行うために、いくつかの工夫を試みている。第一に、生徒が非常に興味を持つであろうと予測して、同年代の生徒の書いた定期考査の自由英作文の解答を選んだ。第二に、英語の力の個人差の軽減と発表に至るまでの全員の達成感を目的として、課題の分業化と選択の自由を取り入れた。第三に、探究的な学習にするために、課題の1つに書き手の意図を読み取るという想像力を働かせる段階を取り入れた。また、最終的な表現は英語で行うこととして、途中経過の思考・判断は日本語でよしとした。そして第四に、発表時の可視化を心がけつつも、面倒な手続きの不要な、赤字添削とプロジェクター投影という簡便な方法を用いた。

実践してみて、授業者の予想を越えて生徒は興味・関心を示してくれた。年齢も英語の習得段階も異なる教員による添削指導よりも、同年代のしかも自分たちと同レベルにいる生徒の批評やアイデアの方が、はるかに効果的なのだと分かった実践だった。

キーワード： 興味・関心 想像力 思考・判断・表現 可視化（簡便に） 協働的学習 個人差

## I 本実践の動機

本実践のアイデアは、以下の3つの動機と1つの契機が偶然一致して生まれたものである。

### 1. 探究的な学習を試みたかった。【動機1】

通常、英語の授業では習得・活用に重きが置かれ、探究的な学習は難しいと考えられることが多い。ネイティブでない限りその言語で思考することはかなり難しいからである。初級段階の中学生ならなおのことである。しかしここで、発表する“作品”は英語であってもそれに至る思考・判断の過程を日本語で行えばよい、と割り切ってしまうくらいでも探究的な学習が可能である。思考・判断の過程や協働的な学習の過程での日本語の使用は、英語の表現力の伸長を妨げないばかりか、むしろより豊かな表現力を育む、と考えた。

### 2. 協働的な学習の弱点を補う授業を試みたかった。【動機2】

学習においては、個人で学ぶ意義も確かにあるが、一方で人と学び合うことの意義も大きい。学校という、生徒が時間と空間を共有できる場では、“学び合い”を入れ込んだ授業を行わないのは勿体ないのである。一方、英語は分野教科ではないので、積み上げられた学力の差が最も出やすい教科である。英語が非常に苦手な生徒と例えば英語圏帰国生の英語力の差は、他の教科の比ではない。そんな中で、タスク活動やプロジェクト活動などの協働的な学習を行うと、グループメンバーの構成次第では、英語力のある生徒が取り仕切ってしまうと他の生徒が何もしないで済む、あるいは苦手な生徒ばかりが集まると全く仕事が進まない、ということが度々起こる。生徒のレベルを考えて意図的にグループを組めば問題は解決するが、それを悟られてしまうと教育上良くないので、通常の座席のままに組んだグループであっても、苦手な生徒も得意な生徒も学び合えるようにしたい、というのが動機の一つ目だった。

### 3. 長年とり溜めた試験問題の答案コピーの活用方法を考えたかった。【動機3】

本校では英語科のどの教員の定期考査（および3年生の学力テスト）の試験問題にも、必ず「テーマ付き自由英作文」を課すことにしている。100点満点中約10点分で、多くの場合既習文法事項を踏まえたテーマで書かせている。学年に応じて20～30 words以上というのが定番である。テストは50分間なので、ほとんどの生徒は約5分ほどで必死で書き上げていると思われる。かつては（筆者に時間があつたころは）、出来の良い解答例を20ほど（各クラス5人程度）縮小コピーして貼り付けて印刷し、全員に配布していた。モデルとなる解答を読むのは生徒にとって刺激になっていたようである。本校には帰国子女教育学級があることもあって、例えば英語圏帰国生の書いたものなどは貴重な資料だった。しかしここ10年ほどは、答案の生徒へのフィードバックは行わないままだった。そうでありながらも、自由英作文の答案のコピーは、返却後の答案の改ざん等の不正行為防止という目的を果たしたあとも、何かに使えると思っていたので捨てずに取っておいた。今回、コピーの活用方法として、発想を変えて「不完全な答案の活用」を思い立ったことが動機の一つである。

### 4. 本校全体の研究テーマとの一致～可視化～【契機1】

授業を実施したのは文部科学省研究開発学校指定の1年目だったこともあり、公開研究会全体のテーマが「思考・判断・表現の力を育てる授業づくり」であり、特に探究的な思考の“可視化”を意識した授業を行うことが命題となっていた。英語の発表学習は口頭のみであることも多いが、この「目に見える形で」というある種の制約が、前述1～3の動機を1つにまとめる契機となった。

常々考えていた1～3ではあったが、学校全体の研究に絡んだ4と相まって、ふと、一石四鳥な本実践アイデアが浮かんだわけである。

## II 授業の目的

### 1. 生徒側の目標

同年代の生徒が書いた不完全な自由英作文を読んで、自分なりに解釈や推敲を試みたあと、グループで知恵を出し合ってより良い作品にして、それを発表する、というこの授業の生徒側の目標は以下の通りである。また、後述の生徒の自己評価項目もこれに対応している。

- |                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 相手の表現したいことを推し量る。相手の表現の長所短所を理解できる。</li><li>② 相手の表現はそのままに、より伝わるようにするために推敲できる。</li></ol> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 相手の表現したいことを活かしつつ、自分なりに工夫した表現を提案できる。

コミュニケーションにおいては、自分の表現したいことを表現する一方で、相手の表現を理解することが欠かせない。コミュニケーション能力という点、とかく発信が重視されがちだが、敢えて“相手は何を言いたいのだろうか”ということを手目線を考えることを、生徒の課題の第1とした。

次に、相手の意図がよりよく伝わるようにするためには、この部分は活かした方がよい、この部分は改めた方がよいと、加除訂正を加えることを課題の第2とした。さらに、それだけでなく、推敲者なりのオリジナリティも加えた表現を提案できることを第3の課題とした。

## 2. 教師側の目的

外国語を通じて母語話者以外の人とやりとりするとき、双方が対等な語学力を持ってスムーズにコミュニケーションが図れることは稀である。こちらの表現力が拙いときは相手に助けを求めなければならず、相手の表現力が拙いときは自分が助けをあげる場面に出くわすことが多い。不完全な自由英作文を題材にすることで、例えば日本語で上手く表現できない外国人を相手にしたときに日本語の達者な者としてどう接すればよいか、というところまで発展させて考えられるようになってほしいと思っている。相手の意図を類推したり、適切な判断を下したり、自他の立場を置きかえてみたりすることで、双方が win-win で学び合おうとする姿勢を持つことが、21世紀型の能力の育成には必要だと考えるからである。生徒側の目標①にはこの願いが込められている。

また、生徒が目標①～③を、協働的な学習の形をとる中で達成でき、どの生徒も、思考・判断・表現の各段階を経験でき、最終的に自分の書く力に関して良い影響があった、何かを学んだ、と思える授業づくりをすることがもう1つの目的である。

## Ⅲ 授業の内容

### 1. 準備等

(1) 対象生徒 3年生4クラス（3年松組、蘭組、梅組 各32名、菊組33名）

(2) 使用機材、教具等

ワークシート（各人）、添削用シートと赤サインペン（各班）、実物投影機、天井プロジェクター

(3) 実施時期と使用教材 ※①～④はワークシート番号

	実施時期		使用教材	自由英作文のテーマ
1回目	2014年9月26日	①	卒業生の3年時の答案 (後期期末テスト)	「中学校生活で一番印象に残っていること」
2回目	2014年10月17日	②	卒業生の2年時の答案 (前期期末テスト)	「生徒祭の思い出」
3回目	2014年10月27日	③	現3年生の3年時の答案 (前期期末テスト)	「あなたができる社会貢献」
4回目	2014年10月28日 10月31日	④		

<ワークシート①でを使用した、間違った文章>

- ① I was in the elementary school, I made a lot of memories. we went to Nikko. When I talked with friends. Then an old friend of mine fell into the fall because his bad company pushed him on purpose. He sent to the hospital. I was sorry for him.
- ② I heard a news from my mother. When I was born I was dying. My mother too. So I think that I was happy. Because there is my life. I want to have a big future which made my mother happy.
- ③ Since I've passed the test of I.C.U. I'm going to go there. I tell you some reasons why. First there are many people like me and that makes me relax. Second is that I can learn more English in other to catch up to my dream.
- ④ I have born in Sumida. When I am one years old, I have been to Honthouras. Honthouras is speaking in Spanish. Here is very hot everyday. But, I love you here.

<ワークシート②でを使用した、間違った文章>

- ① It is Danball collecting. Those were heavy and hard. But I talked a lot of sweets with my friends. So I was a lot of fun. And cleaks were very kind fou us.
- ② I was surprised to see drive trains at School Festival. I teached for students and customers to drives train. But, girl students were bad so good drive trains. Because, they weren't safety drivers.
- ③ I have played the bass on the stage in school Festival. I have a band. Band group's name is light and shadow. I have ever to fan. I remember last School Festiva.
- ④ I was tired very much in School Festival. Because, I had to bring with many Beniya. It is very difficult and heavy. But I enjoyed School Festival. So, I will want to do it.

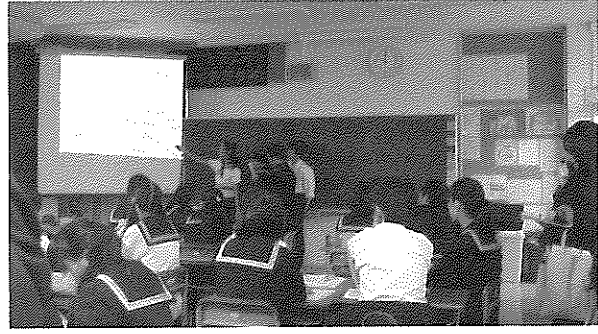
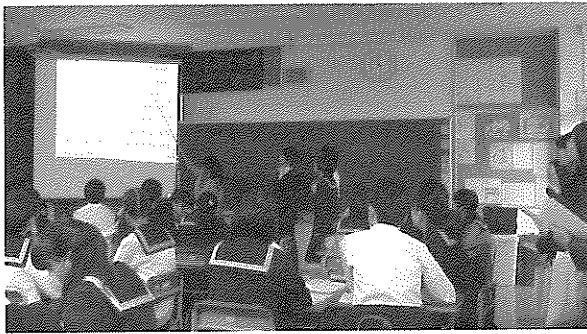
注) 第1～2回目では4つの課題文章では時間が足りなくなったので、第3～4回目では3つに減らした。

<ワークシート③でを使用した、間違った文章>

- ① I believe don't to be war. So I save a peace around the world. and I make smile to everyone. so I have been to [省略]. It is stupit. but I can believe it.
- ② I teach japanese for children. I like to study Japanese, But Japanese is very difficult. Many Children don't like Japanese. I think it so sad. Because, I want to teach Japanese for children.
- ③ I will develop new energy. It is very useful and necessary. It is no producing green house gases. And we will removeing green house gases. I will be there. thank you.

<ワークシート④でを使用した、間違った文章>

- ① First, I want to be a doctor because doctor is to help many people. Second, I want to do many volunteer. Volunteer do many things. For example, catch waste and help old people. So, volunteer is help people and the earth.
- ② I would like to give money for unisef. If money is nothing, Poor people around the world died. I think but, So I want give me a little money. Rich people should give them more money.
- ③ I want to develop something. It make people are happy because it isn't causing greenhouse gases. I have thought about it. I don't found it. So I want to become a scientist.



## 2. 授業の展開

ここでは、公開研究会用に作成した学習指導案を載せておく。第1～4回目とも、ほぼ同じ展開であるが、回を追って順次改善を加えた部分もある。（※資料1、資料2）

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮	学習形態
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題文章①～③を全員が個別に読み、よりよい表現にするための工夫を考える。</li> <li>A) 書き手が何を表現したいのかを考える。</li> <li>B) 単語ごとのスペルミス进行訂正する。</li> <li>C) 文単位の既習文法の間違いを訂正する。</li> <li>D) 文章全体の構成（展開のさせ方）を適正化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの課題文章をまずは全員が読み、個人で(A)～(D)の全作業について考える時間を取る。</li> <li>3課題一気に(A)を行い、次に(B)、余裕があれば(C)、(D)の順で行う。</li> <li>*授業の目的を伝えながら巡回。</li> </ul>	個人
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習班になって、班ごとに担当課題について上記(A)～(D)を考える。</li> <li>(A)～(D)の役割分担を決めて、まずは班内で相互に発表。</li> <li>全体発表用のシートに赤ペンで添削していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8班(4人)で2～3班ずつ同じ課題。</li> <li>発表は2～3班のうち1つの班。</li> <li>班内発表の役割は、前に出て発表するときの役割と同じ。</li> </ul>	協働
22分	<ul style="list-style-type: none"> <li>班ごとに教室の前で発表。</li> <li>赤ペンで添削した班のシートを実物投影机&amp;天井プロジェクターで映しながら発表。(A)(B)(C)(D)の順で入れ替わり立ち替わりスクリーンを指し棒で指して解説。</li> <li>時間に限りがあるので、ボランティア班を募り、同じ課題の他の班には、反対意見や追加意見のみ言ってもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*効果的な話し方、聞き方ができるよう支援。</li> <li>*他の班の発表を聞いて参考にし、自分の取り組みに活かすよう促す。</li> </ul>	協働
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表班と自分のものと比較しながら他の人が工夫した表現から学ぶ。</li> <li>班での活動を経て、課題文章全体を自分なりにリメイクしてみる。</li> <li>*時間があれば英語圏帰国生の書いたものに触れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机は元に戻さないまま。</li> <li>*英語が苦手な生徒は、他の人の表現や工夫を丸々取り入れるだけでもよい。</li> <li>*帰国生の文章は、時間がなければあとで読んでおく。</li> </ul>	個人
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価(アンケート用紙)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*授業のねらいの再確認を兼ねて。</li> </ul>	個人

## 3. 授業づくりの工夫

以下は授業づくりにおける工夫と運用の実際である。

### (1) 生徒の答案を題材にする

#### ① 生徒の関心が高いものを

教科書中心に進めていく通常の授業でも、オーラル・イントロダクションの内容から使用する例文

に至るまで、題材選びに関しては中学生の関心がどこにあるのかを教師は意識する。英語は生徒が嫌いになりやすい教科だけに余計に気を使うのだと思う。そんな中で、生徒が書いた答えは、通常公開されていないだけに、内容への関心というよりは他人への関心という意味で関心は非常に高いと考えた。実際、第1回目の授業でも(同級生でなく卒業学年のものだったが)、例文集を配るなり食い入るように見ていた。生徒は、完成度の高い英語の文章への尊敬や憧れがある一方で、不完全な英語の文章への共感があるのだろう。

#### ②書く力がそのまま出る

試験中の最後の5分ほどで必死に書いたものは、十分推敲する時間もなく辞書や他人の力も借りられないので、対話コミュニケーションの際に口から出てくる英語のレベルに近いものだと考えられる。その不完全さと取り組むことは、自分の不完全さのふり返りにもつながる。生徒の英語表現力の差を利用することで、ともに学び合う姿勢も養えたかった。

#### ③和文英訳との違い

自由英作文は書き手によって内容が様々であるため、「この人は何を言いたいのか、どう表現したかったのか」を推し量るといふ、コミュニケーションの第一段階を意識させるには適切である。

#### ④その他の配慮点

昔、自由英作文の答案のうち大変よく出来たものを20例ほどそのままコピーして配っていたが、今回は満点を取れていない不完全なものを利用するので、個人が特定されないようにタイピングし直した。直筆コピーの方が生徒の興味関心が増すことは間違いないが、字の読みにくさもあるため、教材として使うにはやや不適當かも知れない。また、教材として使用する前には、本人の了承を得た。

### (3) 協働学習での工夫

#### ①役割分担と選択の自由

授業は学習班という4人グループで行い、結果を発表するという形をとるが、3年生ともなると英語は学力差の大きい教科となっており、また各クラスとも英語圏帰国生が在籍しているため、グループ学習では英語の得意な生徒が牽引してしまい、他の生徒は見ていだけになりがちである。かといって、得意不得意の種類やレベルが同じ者同士を組み合わせると、不得意グループは互いに刺激を受けることが少なくなる。そこで、そういう事態を避けるために、全員で考えるようにしながらも発表に当たっては成員のそれぞれに役割を持たせることにした。具体的には、「この書き手は何を表現したかったのかを考える(A)」「単語レベルのスペルミスを訂正する(B)」「文単位の文法の誤りを訂正する(C)」「文章全体の構成を考える(D)」という4つの役割を用意して4人で話し合って選ばせた。3人班の場合はBC両方を担当させた。役割を持たせることがグループへの貢献を感じさせ、それが達成感へとつながると考えたからである。

この役割分担は、発表に至るまでの作業に必要な英語力の差を埋めるために考えたものであり、英語が苦手な生徒がAを選び、得意な生徒がDを選ぶだろうと予想したが、実際授業をやってみても、苦手な生徒はAを選びたがり、得意な生徒は積極的あるいは皆に推される形でDを選んでいった。予想通りとはいえ、先生に割り振られた役割ではなく“自分で選んだ”役割なので、それなりのモチベーションは持てたようである。生徒にやる気を出させるには、自分の意志による選択を少しでも入れ込むことが大切だと考えた。

#### ②授業の最初と最後には個人学習の時間をとる

グループでの学習は、協働することが重視されるために個人の学びが置き去りにされることがある。グループで何かを作る、グループで発表するなど、グループでの成果を目標にする中で、例えば、

自分の役割だけしかやらない生徒がいたり、楽しそうに参加してはいるが他のメンバーに任せっぱなしだったり、助けてもらってばかりだったりという生徒がいる場合がある。本実践はあくまで英語の授業であり人間関係を学ぶことが目的ではないので、どの生徒もきちんと英語に関して学ぶところがないといけない。そこで、前述の(A)～(D)全過程の作業を、グループに分かれる前にまずは時間制限付きで個人で取り組んでもらい(自分ができたところまででよい)、その後の、班内活動および全体発表という協働学習を経たあとも、最後に個人で課題文章全体をリメイクする時間を取った。

英語が得意な生徒はオリジナリティにこだわりつつも他の生徒の工夫を上手く取り入れて書き、英語が苦手な生徒は、他の人の推敲や工夫を丸々写すだけで自分のオリジナリティは活かしていない場合が多いが、“学ぶことは真似ることから始まる”ことを考えるとそれでも構わないと考える。

### ③全体での発表と時間短縮

第1回目と第2回目の授業を経て時間が足りないことが分かったので、第3回目と第4回目では課題文章の数を4つから3つに減らした。また、1つの課題文章につき2～3班が担当しているが、発表は全部の班が行うのではなく、やりたい班を優先にし、複数班の希望があれば(あるいは希望がない場合も)ジャンケンで決めた。同じ課題を担当する、発表しない班には、追加意見を言ってもらう等の形での参加とした。

#### (3) 英語の構造を客観的に見る～複文構造と後置修飾～

自分の間違いには気づきにくいものだが、他の人が書いたものは意外に客観的に見るができる。教師になったつもりで添削をしていくことは、本人の既習文法の知識の振り返りにもなるし、自分の書く力を伸ばすことにもつながる。その意味でも他人の答案の添削は学習に有効である。

中でも特に注意を向けたかったのは「複文構造」と「後置修飾」である。サンプルになっている間違った文章は単文の羅列が多いので、ブラッシュアップするには接続詞で繋いで重文や複文にすることよというアドバイスをした。また、前置詞+名詞(句)、不定詞、分詞、関係代名詞などを使った後置修飾は、後置修飾の無い日本語に慣れている者にとっては理解も表現も困難が伴うので、そこに注意を向けるアドバイスもした。さすがに中3ともなると、日本語のようなSOV構造で書いてしまう生徒はほとんどいなくなるが(しかし時間が無い試験中の自由英作文では、慌てふためいてしまうのか、3年生の答案でもけっこう見受けられることはある)、現行の学習指導要領で力点が置かれていることから分かるように、修飾・被修飾関係では日本語に引きずられ易いようである。

#### (4) 相手の意図を活かした表現を

書いたり発表したりする“準備して臨む”発信型の学習では、本人の動機や意欲や表現力が重視され、コミュニケーションの基本である「相手の言いたいことを理解する」という視点が抜けがちである。本実践では、自分が一方的に表現するのではなく、相手の意図を汲み取りながらよりよい表現にするにはどうすればよいかを考えさせることによって、上手な表現はモデルとし、下手な表現は自分の振り返りに活かす、そういう“お互いさま”な姿勢が、相手も自分も伸ばしていけることにつながることを意識させたかった。

#### (5) 「思考・判断・表現」の可視化

中学英語という初級段階では、表現は英語でできるとしても、思考・判断といった探究的な部分を英語で行うことは難しいので、最終的な作品としての表現は英語で、それに至る思考や判断の過程は日本語で行うことによって、生徒が取り組みやすくなる。そして、その過程を可視化させることが生徒のよりよい理解につながる。可視化のためのツールは昨今様々なものが開発されているが、使用方法が複雑だと授業者にとってのハードルが上がってしまうので、今回の実践では、生徒個人の手元

ワークシートの一部を拡大コピーした大きな書き込みシートに、班ごとに赤ペンで添削をし、さらにプロジェクターでスクリーンに投影しながら発表する、という簡便な方法をとった。準備にかかる費用・手間・時間に対して効果は高いのでおすすめである。

(6) 英語圏帰国生の文章に触れる (※資料4)

時間がなければ配布して読んでおいてもらうのでもよいので、せっかく英語圏帰国生と共に学べる環境なので、補助教材として彼らの書いた答案をタイプして与えた。帰国生はネイティブの表現力を身につけているので、採点をする教師自身が学ぶことも多い。また、帰国生の書いたものもそれぞれに個性があるため、全員で共有すれば、帰国生同士の学び合いもできると同時に、一般生に対して彼らのレベルの高い英語を1つのモデルとして提示することもできるからである。

(7) その他

発表内容において、間違った知識のまま発表していることがある場合には、その都度訂正した。また、多くの生徒が知らない単語や表現を使う生徒がいた場合にも、その都度解説を施した。

## IV 評価と課題

研究発表会で公開したクラスだけだが、授業後に前述Ⅱ-1の目標に照らして生徒の自己評価を行った。アンケート集計結果は以下の通りである。

1. 書き手の表現したいことを推し量ったり、良いところを見つけたりできましたか。  
■とてもできた(12) ■わりとできた(18) ■あまりできなかった(2) ■ほとんどできなかった(0)
2. 書き手の表現はなるべくそのままにして、より伝わるように推敲できましたか。  
■とてもできた(10) ■わりとできた(19) ■あまりできなかった(3) ■ほとんどできなかった(0)  
\*それができるために必要な力は何だと思いますか。(※◆は筆者による分類)
  - ◆文法や語彙の知識(9)
    - ・文法力 ・語彙力 ・接続詞や副詞などの知識
  - ◆理解する力や読みとる力(9)
    - ・理解力 ・何を書きたいのかを分かる力 ・相手が言いたかったことを読みとる
    - ・読解力 ・ちゃんと読む能力 ・重要な部分を読みとる能力 ・大ざっぱに訳せる力 ・考える力
  - ◆想像する力(8)
    - ・想像力 ・相手の意見を尊重する ・同じレベルに立つ ・書き手に寄り添う ・感受性
  - ◆表現する力(3)
    - ・様々な表現を学ぶこと ・表現の仕方を身につけること ・言いたいことをまとめる力
  - ◆その他(3)
    - ・英語力 ・人間力 ・創造力
3. 書き手の表現したいことを活かしつつ、自分なりに工夫した表現を提案できましたか。  
■とてもできた(13) ■わりとできた(14) ■あまりできなかった(4) ■ほとんどできなかった(0)  
\*それができるために必要な力は何だと思いますか。
  - ・語彙力(単語や熟語の力)(10) ・文法力(7) ・想像力(4) ・表現力(2) ・発想力(2)
  - ・知識(2) ・日本語の応用力 ・文章力 ・構成力 ・読解力 ・大ざっぱな読み
  - ・自分の意見を持つこと ・考える力 ・英語力 ・以心伝心



4. このような授業は、次に「自由英作文」を書くときに役に立つと思いますか。(※<>は筆者による分類)

■とても役に立つ(25)

<自分の間違いに気づく>

- ・客観的に見つめることで自分の自由英作文と重なり、間違いやすいポイントに気づけるから。
- ・間違いやすいところがわかるから。 ・多く起こしてしまうミスを知ることができたから。
- ・同じミスをしなくなるから。 ・直すことで自分がどういう風には書けばいいかわかるようになるから。
- ・どのような文法ミスをするか分かった。 ・文の悪いところが分かるようになるから。
- ・間違っている英作文をあまり見ることがないから。

<文法、構成、文のつながりを学べる>

- ・文をつなげる工夫が学べる。 ・文法、文のつながりについて学べるから。
- ・文の構成の仕方が分かるから。 ・正しい文の構造や良い表現ができる。
- ・人の作品の添削をすることで自分の文法力の幅を広げられるから。 ・活用できる文法などの発見。
- ・人の作品を評価することで文法の力がつく。

<単語、熟語を学べる>

- ・わたしの知らない単語の使い方を学ぶことができたから。
- ・言い回しやイディオムを知ることができる。

<表現、考え方を学べる>

- ・(班内の)他の人と会話をしてどういう言葉を使うべきか分かる。
- ・自分が思いつかなかったような表現が学べたから。 ・いろんな表現を知ることができたから。
- ・人の意見を見ることができたから。 ・考える力が身につくから。
- ・いろんな人の意見や考え方を自分のものにできるから。

<帰国生から学べる>

- ・帰国生のことばや考えをもとに文を変えたから。 ・帰国生の表現がためになった。

■わりと役に立つ(6)

- ・発表の時によい表現を学べるから。 ・これらを例にしてもっと良い作文を書けるから。
- ・他人のミスや分かりにくい文章の構造を学んで次に活かせるから。 ・大学のレポートで使いそう。
- ・帰国生に教えてもらい頭に残るから。 ・いろいろ知ることができたから。

■あまり役に立たない(1) 焦ったら変なことを書きそうだから。

■ほとんど役に立たない(0)

1番の結果からは、生徒のほとんどが、課題文章の書き手が表現したいことを推量したり良さを見つけたりなどの積極的な態度で授業に臨んだことがわかった。

2番の結果からは、相手の意図を汲みながら推敲するときには、語彙力や文法の力、理解する力や読みとる力、想像する力の3つが同等に多いので、推敲に際しては自分の持つ語彙力や文法力もさることながら、相手への歩み寄りが必要だと感じた生徒が多いことがわかった。

3番の結果からは、相手の表現を活かしつつも自分が表現を加えるときには、語彙力と文法力が必要だと感じている生徒が多いことがわかった。

4番の結果からは、約8割の生徒が「とても役に立つ」、約2割の生徒が「わりと役に立つ」と感じ、その理由も様々であることがわかった。特に「とても役に立つ」と答えた生徒では、「自分の間違いに気づく」あるいは「文法、構成、文のつながりについて学べる」と答えた生徒が多かった。

以上のアンケート結果から、本実践の副題である「友だちの表現に学ぼう！～ライティング上手も下手も鏡かな～」だが、間違った課題文章には自分が書く文章を照らし合わせ、発表を通じて他の人

の推敲例と自分の推敲例を比較し、英語の得意な生徒や帰国生の意見からは自分に無いものを学び、またそれをモデルとし、という風に、Every man's neighbour is his looking-glass. (隣人は鏡である) という諺を体現できた実践ができたと考える。

今後の課題としては、過去の答案や同じ学年の生徒の答案を活用して、1年生は1年生なりに、2年生は2年生なりに工夫した実践を行うことを考えている。そして、年に1～2回こういう授業を行うことで、相互に学び合うことの大切さを記憶にとどめて、高校という次のステップへ進んでほしいと考えている。

<参考文献>

「中学校学習指導要領外国語編」(文部科学省) 2008

「新しい時代の英語科教育の基礎と実践」JACET 教育問題研究会 (三修社) 2012

「新しい英語科授業の実践」石田雅近、小泉仁、古家貴雄 著 (金星堂) 2013

## 友だちの表現に学ぼう！④

～ライティング 上手も下手も 鏡かな～

1. 書いた人は何を言いたいのか？	思考 (類推)	協働
2. ①スペルは正しいか。 ②各文の構造 (文法) は正しいか。	思考、判断	"
3. 文章の展開 (文同士のつながり) は正しいか/効果的か。	思考、判断	"
* 自分ならこう書く (=こう書いてあげると、この人は喜んでくれそうだ。)	表現 (想像、創造)	個人 協働

① First, I want to be a doctor because doctor is to help many people. Second, I want to do many volunteer. Volunteer do many things. For example, catch waste and help old people. So, volunteer is help people and the earth.

What does this student want to express?

② I would like to give money for unisef. If money is nothing, Poor people around the world died. I think but, So I want give me a little money. Rich people should give them more money.

What does this student want to express?

③ I want to develop something. It make people are happy because it isn't causing greenhouse gases. I have thought about it. I don't found it. So I want to become a scientist.

What does this student want to express?

★ How would you express if you were this student?

Let's try.....  
to change the order of the sentences.  
to delete some sentences.  
to add some sentences.

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

<振り返り>

Class No. Name \_\_\_\_\_

試験問題の答案を活用した協働的なライティング学習「友だちの表現に学ぼう！～ライティング 上手も下手も 鏡かな～」

< 資料 2 >

① First, I want to be a doctor because doctor ~~is to~~ <sup>can</sup> help many people. Second, I want to do many volunteer. <sup>works</sup> Volunteers do many things. For example, catch <sup>picking</sup> waste and help old people. ~~So, volunteers is help people and the earth.~~ <sup>I think can</sup>

I want to work to help many people.  
SAVE our environment

① First, I want to be a doctor because doctor is to help many people. / Second, I want to do many volunteering. <sup>take part in</sup> Volunteer do many things. / For example, <sup>There are many kinds of volunteering</sup> catch wastes and help old people. ~~So, volunteer is help people and the earth.~~ <sup>can</sup> <sup>save</sup>

② I would like to <sup>donate</sup> give money to UNICEF. ~~for unisef.~~ <sup>we don't give</sup> If ~~money is~~ <sup>money</sup> nothing, Poor people around the world died. ~~I think but,~~ <sup>I want to give money</sup> ~~So I want give me a little~~ <sup>to</sup> money. Rich people should give them more money ~~which to can~~

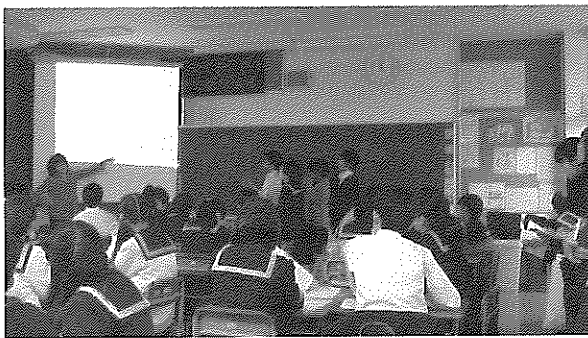
② I would like to <sup>donate</sup> give money to the UNICEF. ~~for unisef.~~ If money is <sup>given p</sup> nothing, Poor people around the world died. <sup>will</sup> I think but, <sup>am too young to them</sup> ~~So I want give me a little~~ <sup>so</sup> money. Rich people should give them more money.

② I would like to <sup>donate</sup> give money to UNICEF. ~~for unisef.~~ <sup>there</sup> If ~~money is~~ <sup>no money p</sup> nothing, Poor people around the world <sup>would</sup> died. ~~I think but,~~ <sup>This is why to</sup> ~~So I want give me a little~~ <sup>them as much money</sup> as possible money. Rich people should give them more money.

③ ~~I want to~~ <sup>is</sup> develop something that doesn't cause greenhouse gases. ~~It make people are happy and make people, happy. because it isn't causing~~ greenhouse gases. I have thought about it. ~~I don't~~ <sup>but can't find yet</sup> ~~found it.~~ <sup>couldn't</sup> ~~So I want to~~ <sup>so I want to work hard for this to</sup> make it happen. become a scientist. and )

③ I want to develop something.  
小文字 It makes people are happy.  
 because it isn't causing greenhouse gases. I have thought about it. I <sup>have</sup> don't know found it. So I want to <sup>but</sup> become a scientist.  
how to make yet to develop it

<sup>and a new thing</sup>  
 ③ I want to develop something, which will make people are happy by not producing because it isn't causing greenhouse gases. I have thought about it. I <sup>an idea but</sup> don't I couldn't come up with one. found it. So I want to become a scientist.  
 But I will never give up!



★第1～3回目の授業の題材にした自由英作文より。小学校時の帰国生も含めて、英語圏海外在住経験者の答案を載せた。配布時には名前も公開。

< 英語圏海外在住経験者の文章 >

2014.10.31

- ① When I grow up, I would like to help the world by making a medicine that would cure bad illness. For example if I made a medicine that cures cancer without any side effects, many people will be saved from suffering to death.
- ② When I grow up, I would like to walk a lot. It is because if I walk instead of using a car I can meet someone who is sad and maybe I can mak them happy by talking with them.
- ③ I want to be a singer in the future. If I became popular, I want to make everyone who heard my song happy. And if everyone became happy, the world would be also happy. So I practice singing every day.
- ④ I want to help people in need. My mother is a nurse. So my mother and her friends often visit houses with pople in need. A few weeks ago, she visited an ALS patient named Hiro. I admire her work. So, I want to help people in need.
- ⑤ I want to work in a company that uses English as their first language. By doing so, I want to cooperate with people from all over the world and help others by studying English very hard. I haven't decided the kind of company I'd like to work in, but I am determined to work for people internationally.
- ⑥ When I grow up, I want to keep a lot of dogs. I once heard that there are too many abandoned dogs, so they need to kill some of them. There are so many innocent lives gone. By keeping them, less dogs would be killed.
- ⑦ When I am older, I would like to volunteer and help out for the less fortunate. I want to go to developing countries and comfort people, entertain people and provide for them as much as possible. I want them to have the life that I had. Volunteering is one thing but adopting a child would be another thing I would like to do. I want to help out in this world and bring joy to as many people as I can.

⑧ I want to tell importance of temples and shrines in my town. In my town, there are many interesting temples and shrines. But some people are throwing garbage there. I think it is not good. So I want to tell them how important the temples and shrines are.

⑨ I want to work abroad and work for the world when I grow up. I lived in Canada when I was small, so I made many friends there and became interested in foreign countries.

⑩ I want to help many people using my English skills. I have many friends all over the world and I like communicating with many people. So I want to study more languages and be able to translate.

⑪ I want to save our environment. Saving environment is important for our lives. Our environment is becoming worse because we produce a lot of CO2. So I want to remove CO2.

⑫ In the future, I want to make the world equal. There are many countries in Africa that are poor. I think that is very sad. On the other hand, there are countries that are extremely rich like the United States. I want to make the poor African countries as rich as the United States.

⑬ What can I do for the people and the world? When I think of that, right now I'm only 15 years old, so maybe I can't co that much for the people or the world. But, in the future I would like to learn more languages and help people by connecting people all over the world and solve the problems that exist between countries.

⑭ I want to make the people around me happy. I love to say crazy things and make my friends and family laugh. I'll concentrate on my work and make my company's boss happy in the future. Maybe, this won't change the society. But if I can decrease pupils' stress, I think that is what I am living for.

⑮ In the future, I want to be a diplomat and try to fix Japan's relationships between the Asian countries, because I like learning about foreign languages and cultures. So I will take advantage of this by becoming a diplomat to make Asia a peaceful place.